



クレープ&カフェ くるくる

たかはた さちこ

オーナー 高畑 幸子さんに聴く

1961年生まれ。出身は熱塩加納町。塩川町の米農家のお嫁さんとして活躍する一方、30年以上接客業や企画業に携わった経験を生かし、家族でキッチンカーによる「かき氷」や「クレープ」の販売を開始し、好評を得ています。

現在は、レトロ横丁商店街に、お洒落で気さくな店舗を構えています。



注文が入ってから焼き上げる、出来たてでもちもちのクレープを提供しています。季節ごとに旬の素材を使った新商品を出していますので、季節が変わる度に来店するのが楽しみなお店です。

クレープの他、ドリンクやランチメニューを多数揃えています。テイクアウトもできますので、気軽に立ち寄ってみてください。

お店のオープンについて聞かせてください

お店をオープンしたのは、平成31年4月です。この年は、新型コロナウィルスが流行し始めた頃でしたが、クレープはテイクアウトが多い食べ物のため、販売を続けることができました。はじめから大きな店舗にするつもりはなく、こぢんまりとした、北欧のイメージで作りました。

オープン時はどのような心境でしたか？

お店のオープンを考えていたときに、この物件を紹介してくださった方がいて、初めてこの物件を見た時の感想は、『ここなら、自分の描いていたイメージのお店をオープンできる』と、胸を弾ませたことを覚えています。資金面では、商工会の協力もあって、コロナ禍においてもお客様に足を運んでいただいています。

その後いろいろな方との縁や支えがあって、現在も楽しく働いています。

周囲の反応はどうでしたか？

家は米農家ですが、誰も反対せず、むしろ後押ししてくれました。農繁期には、孫たちも含めて家族総動員で田畑の作業をしています。おかげで、お店の経営と農業を両立できています。

お店のにぎわいのために取り組んでいることを聞かせてください

お店を構えた場所の「レトロ横丁商店街」は、シャッターが閉まっている店舗が多いのが現状です。そこで、商店街を盛り上げようと、軒下を利用して、知り合いの地元のアーティストさん、クリエイターさんたちと企画して「軒下マルシェ」を定期的に行っています。皆さんがフリーマーケットのような形で立ち並ぶことで、楽しい通りを演出しています。お店としては、飲食だけではなく、一部の雑貨を常時販売しています。

これからも、町の活性化に

一役買うことができればと考えています。



▲娘さんと三ノ倉高原で
かき氷を販売

これからの男女共同参画社会について

従業員を雇用する上で、男女を意識することはありません。接客が上手な方をお願いしたところ、私も含めて5人の女性で切り盛りしています。ここで働いている方は、お金だけが目的ではなく、楽しさやワクワク感を大切にして、楽しく働いている方が多いのが特徴です。景気が不安定なので、ダブルワークの方もいますが、今後も増えると思います。働きやすい関係を、長く続けられればと願っています。

問 企画調整課 企画調整班
☎(24)5209